



葉 山 町
令和3年4月7日
記 者 発 表

株式会社 TBM の使用済みプラスチックの マテリアルリサイクルに向けた実証実験に協力します



葉山町は、株式会社 TBM（本社：東京都中央区、代表取締役 CEO：山崎敦義）が令和3年3月から5月末にかけて実施する、使用済みプラスチックのマテリアルリサイクルに向けた実証実験に協力します。この実証実験は、本町の家庭から排出される使用済みプラスチックを回収し、自動選別装置で選別された資源プラスチックを用いて、マテリアルリサイクルを実施します。

■協力の経緯

本町と株式会社 TBM は、プラごみゼロを目指す「はやまクリーンプログラム」を通じ、2019年9月30日に「葉山町と株式会社 TBM との連携に関する包括協定」を締結しており、この包括協定に基づき、今回の株式会社 TBM の実証実験に協力することとなりました。実証実験ではクリーンセンターに搬入された使用済みプラスチックの一部(約 100kg)をサンプルとして活用します。

■プラスチックリサイクルの意義

環境省と経済産業省は令和4年以降、家庭から出るプラスチックごみ全般を一括回収する新たな分別区分「プラスチック資源」を設ける方針を決定しました。

プラスチックリサイクルについては、「海洋プラスチックごみ問題」や「地球温暖化」など様々な観点からその必要性が増しています。現在、容器包装プラスチックを除く使用済みプラスチックは、その多くが焼却され、その熱を電力化するサーマルリサイクルによって処理をされています。サーマルリサイクルからマテリアルリサイクルにシフトすると、CO2 の削減効果は 2.3 倍^{*}に向上するとされています。

※ 出所：一般社団法人プラスチック循環利用協会 「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの 環境負荷評価 (LCA)」

(https://www.nikkakyo.org/system/files/JaIME%20LCA%20report_0.pdf)

前提：本取組の対象廃プラと類似していると想定される「一般家庭から排出されるプラ容器包装」の場合の数値を参照。マテリアルリサイクルは、物流パレットに再生した場合の例。

■実証実験概要

この実証実験では、一般家庭から排出される使用済みプラスチックのみならず、オフィスや交通施設等、様々な場所から排出される使用済みプラスチックを、自治体、排出事業者、物流事業者及び資源選別事業者と協力し、回収・選別します。その後、株式会社 TBM の研究施設にてその物性評価を行った後にリサイクルをし、全国的なマテリアルリサイクルの推進に向けて、プラスチックの資源循環スキームのモデルづくりを進めるものです。

本町は令和3年3月18日に2050年までにゼロカーボンを目指す「はやま気候非常事態宣言」を表明しました。今後も事業者や町民と一体となって、ゼロカーボンの実現に向けて積極的に取り組んでまいります。



葉山町問合せ：葉山町環境課 大屋 TEL:046-876-1111 内線 452

株式会社 TBM 問合せ：コーポレート・コミュニケーション本部 菊田、酒井／経営企画本部 杉山

TEL : 03-3538-6777 MAIL: infomail@tb-m.com